

## オセアニア州の指導にあたって ～他地域との結びつきを主題に

## ●『学習指導要領解説』の抜粋

世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。(ア)アジア (イ)ヨーロッパ (ウ)アフリカ (エ)北アメリカ (オ)南アメリカ (カ)オセアニア

(カ)オセアニア：＜主題例＞アジア諸国との結びつき  
“なぜオセアニアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結びつきが強まってきたのか”という問いを立て、オーストラリアやニュージーランドの貿易品の量・額の動向や輸出入の相手国、国内の資源開発や各産業の生産額の推移、アジア諸国からの移民の受け入れなどを追究すると、オーストラリアやニュージーランドがアジア諸国と結びつきを強め、多文化社会が進むオセアニアの人々の生活の様子が明らかになり、オセアニアの地域的特色の理解につながる。

## ●指導上の留意点

オセアニアの海域は太平洋全体の約半分におよび、きわめて広大な地域であり、多様な環境・文化を有する側面と、日本を含むアジア諸国とのつながりを深めつつある共通性を有する側面の二面を的確にとらえながら学習を進める必要がある。

「オセアニア州のあらまし」の項目では、4つの地域・文化圏の分類とともに、多様な文化の存在に留意する必要がある。知っている島を地図帳などで見つけ出す課題が設定されているが、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの島々の特徴をわかりやすく説明して興味を引くのもよい。「オセアニア州と地域の結びつき」の項目では、オーストラリアの歴史を中心に、先住民と移民の関係から多文化社会を考えさせたい。「オセアニアと日本の結びつき」の項目では、オーストラリアの豊富な資源と日本の鉱工業の現状とを結びつけて考えると同時に、農畜産物と自然環境の関係にも留意したい。観光面では日本のスキーリゾートへのオーストラリア人観光客の急増などの話題から双方向の交流を教材化することも有効であろう。

## ●ワークシートの単元構成 &lt;想定する時間数：全体で4時間&gt;

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
1	オセアニア州のあらまし	オセアニアの位置と広がり 地域区分、主な国々の名称と位置	オーストラリア大陸 ミクロネシア、ポリネシア、メラネシア	p.38
2	オセアニア州と他地域の結びつき	植民地と先住民 白豪主義から多文化主義へ	アボリジニ、移民、白豪主義、多文化主義	p.39
3	オセアニア州とアジアの結びつき	北を向くオーストラリア 日本との結びつき	石炭・鉄鉱石、農畜産物、観光	p.40
4	オセアニア州のまとめ	大きくとらえたオセアニア 他地域との結びつきからみたオセアニア	白地図上に主な地名や語句を整理する 追究したテーマについて文章でまとめる	p.41

## オセアニア州 ①

# オセアニア州の あらし

### ●学習のねらい●

地図帳を使って、オセアニア州の広がりや地域区分、国名や島の名前などを調べてみよう。

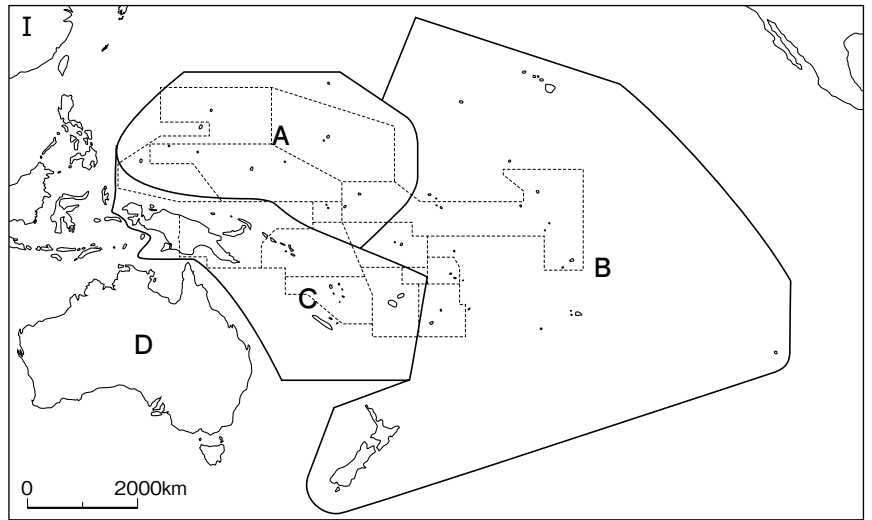
オセアニア州は、赤道と日付変更線<sup>へんこう</sup>の交差する地域を中心とした広い太平洋とオーストラリア大陸、パプアニューギニア、ニュージーランドからなる地域です。オーストラリア、パプアニューギニア、ニュージーランドをのぞけば、そのほとんどがさんご礁<sup>しょう</sup>や火山島からなる、小さな島々です。たいへん広いオセアニア州は、日付変更線の東側で、ニュージーランドをふくむポリネシア、日付変更線の西側で赤道の北側に広がるミクロネシアと赤道の南側に広がるメラネシアおよびオーストラリア大陸に分けられます。地図で調べてみると、ミクロネシアの北ど

なりは日本であることがわかります。

オセアニア州はオーストラリアの大陸、たくさんの島々が点在する太平洋と、豊かな自然が広がっています。気候をみると、ニューギニア島や赤道付近の島々は熱帯、オーストラリア大陸の大部分は乾燥帯<sup>かんそう</sup>、そして大陸東部からニュージーランドは温帯となっています。オセアニア州の人々は、もともと住んでいた先住民のほかに、新しい土地を求めて移住してきたヨーロッパの人々などさまざまで、多種多様な文化が発展しました。また、オーストラリア大陸を中心に、豊富な地下資源にめぐまれています。

**課題 1** 右の地図ⅠのA～Dにあてはまる地域名を記入しよう。

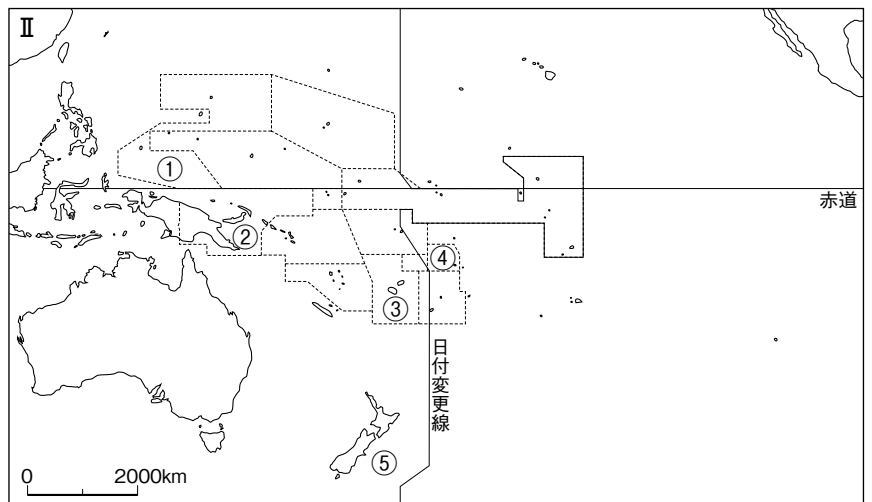
A	
B	
C	
D	



**課題 2** 右の地図Ⅱで、赤道を赤、日付変更線を青でなぞってみよう。

**課題 3** 右の地図Ⅱの①～⑤の国名を記入してみよう。

①	
②	
③	
④	
⑤	



**課題 4** 地図帳や教科書を使って、知っている島をみつけ出し、名前を書き出してみよう。

-----
-----

## オセアニア州 ②

### オセアニア州と他地域の結びつき

#### ●学習のねらい●

オーストラリアの歴史を学びながら、多文化社会を目指すようになった理由を考えてみよう。

オーストラリアには、もともと先住民のアボリジニの人々が住み、狩猟や採集をしながら暮らしていました。18世紀の終わりにイギリス人の移民が多数入植し、それ以来さまざまな国からきた移民やその子孫たちによって開拓が進み、広大な土地を利用した牧畜業や農業が発展しました。また、19世紀中ごろには金が発見され、ゴールドラッシュをもたらしました。アボリジニは土地を追われたり、白人の持ちこんだ病気に感染するなどして人口が減少し、20世紀はじめころまでには、10分の1までになりました。

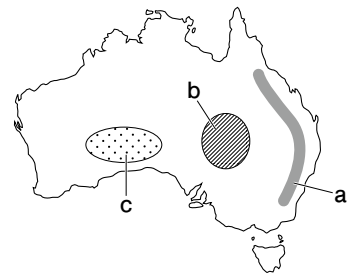
金鉱で働く労働者として多くの中国人が移民したり、さとうきび畑の労働者としてメラネシアの人々や、真珠を採集する日本人などアジア系の労働者が増えて

くると、イギリス系の移民とアジア系の移民とのあいだでいさかいが起こるようになります。そこで、20世紀に入ってまもなく、オーストラリア政府は、白人以外の移民をしめだす白豪主義政策をとるようになりました。

しかし、第二次世界大戦後、オーストラリアでは経済の発展をはかるため、英語圏以外のヨーロッパ人や西アジアなどアジアの広い地域からの移民を受け入れるようになり、異なる言葉や文化をもつ移民の人々が暮らすうえで、不利にならない社会をつくらうとする「多文化主義」を国の新しい方針としました。なかでも、地理的な位置から、アジアとの関係を深めようとしています。

課題 1 右の地図の a～c にあてはまる自然地名を記入しよう。

a	山脈
b	盆地
c	砂漠



課題 2 右の円グラフは、1961～65年と1992～96年のオーストラリアへ移住してきた人々の出身国を示しています。どのような変化がみられるか、気がついたことをまとめてみよう。

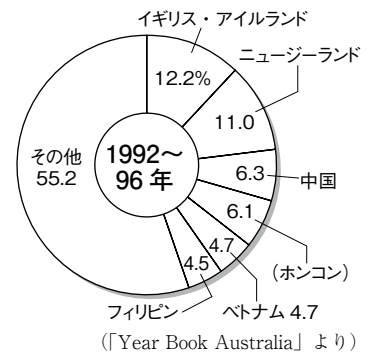
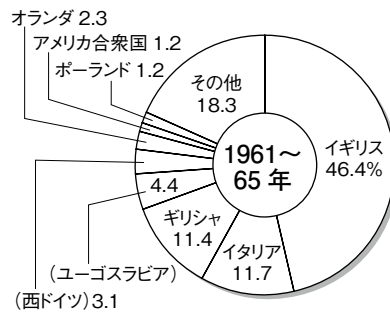
-----

-----

-----

-----

-----



課題 3 オーストラリアが、多文化主義をとるようになった理由を考えてみよう。

-----

-----

-----

課題 4 オーストラリアが、アジアの国々との関係を深めようとしている理由を考えてみよう。

-----

-----

-----

## オセアニア州 ③

# オセアニア州とアジアの結びつき

### ●学習のねらい●

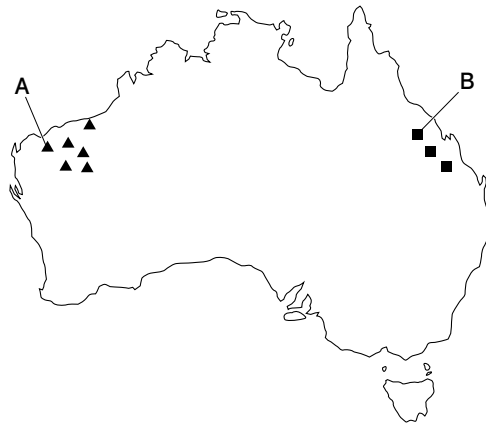
オーストラリアやオセアニアの豊富な資源と貿易、観光などを通して、日本とのつながりをみてみよう。

イギリス系の白人移民を中心としたオーストラリアは、これまでみたように「白豪主義」をとってきましたが、第二次世界大戦後は経済を活発にさせるため、労働力の不足を補う目的で、東ヨーロッパや西アジアなどの英語圏以外の地域からの移民を数多く受け入れ、その結果「多文化主義」に変化してきました。特に、1970年代に入ると、重要なパートナーであったイギリスがヨーロッパ諸国との結びつきを強めるなか、オーストラリアは太平洋地域の国として、アメリカや日本、そして他のアジアの国々との関係を深めていきました。

オーストラリア大陸からは、石炭、鉄

鉱石、金、ボーキサイト、ウランなど豊富な資源が採掘され、重要な輸出品になっています。また、広大な草原を利用した羊の牧畜や小麦栽培など、農畜産物の生産もさかんです。こうしたオーストラリア大陸の大自然はもちろん、太平洋の島々では豊かな海洋資源、特に観光がさかんで、資源の少ないオセアニアの多くの地域では、観光開発が期待されています。このようなオーストラリア、オセアニア地域と日本は海を通じて隣同士の関係にあり、資源の貿易がさかんに行われています。近年、日本からこれらの地域への観光客も増え、交流がさかんに行われるようになりました。

**課題 1** 右の図は、オーストラリアで採掘される鉱産物を示しています。図中の記号 A, B はそれぞれ何か、地図帳などを使って調べてみよう。



A	
B	

**課題 2** 右の表は、日本とオーストラリアとの主な貿易品目（2008年）を示しています。輸出品と輸入品を比べたとき、どのような特色が見られるか、下にまとめてみよう。

-----  
-----  
-----

### オーストラリアへの輸出

品目	%
自動車	44.3
機械類	20.6
石油製品	11.3
鉄鋼	4.3
タイヤ・チューブ	2.5

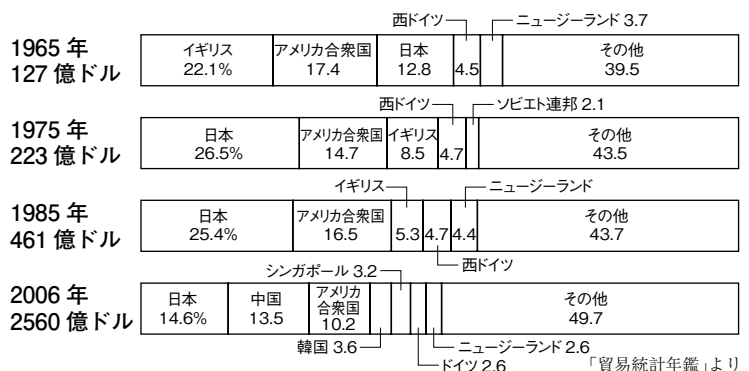
### オーストラリアからの輸入

品目	%
石炭	39.2
液化天然ガス	14.9
鉄鉱石	14.7
肉類	4.1
アルミニウム	3.7

（「日本国勢図会 2009/10年版」より）

**課題 3** 右のグラフは、オーストラリアの貿易相手国の変化を示しています。どのようなことが分かるか、下にまとめてみよう。

-----  
-----  
-----



## オセアニア州 ④

# オセアニア州の まとめ

### ●学習のねらい●

地図帳を使って、白地図上に語句や地名を記入し、オセアニア州についてまとめよう。

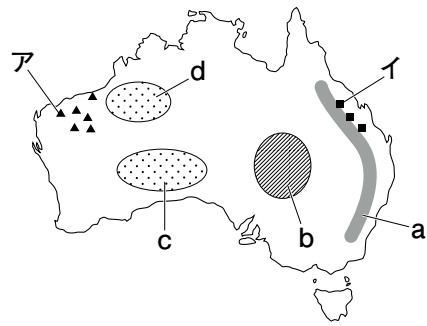
オセアニアは、オーストラリア大陸、ニュージーランド、そしてさまざまな島々から成り立っています。島々が点在する地域は、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分されます。アメリカ合衆国の一州であるハワイもポリネシアに属します。この地域は世界じゅうから観光客が多数おとずれます。

オセアニアの代表的な国であるオーストラリアをみてみましょう。歴史では、まず先住民のアボリジニがおり、18世紀になってイギリス人が移住し始めました。それ以来、移民が増え、一時期は多数派の白人によって白豪主義政策がとら

れましたが、1970年代になり方針が変わり、アジアなどから積極的に移民を受け入れるようになりました。「多文化主義」はその方針を表した言葉です。農業では、牛や羊の放牧やさとうきび栽培が行われています。内陸部は非常に乾燥しているので、農業には適しません。工業では、鉱産資源が豊富です。グレートディバイディング山脈がある東部では石炭が、ビルバラ地区がある西部では鉄鉱石が産出され、大規模な露天掘りが特徴的です。日本はこれら鉱産資源の主な輸出先です。

**課題 1** 右の地図の a～d の地形、ア、イの鉱産資源を書きこんでみよう。

a		b	
c		d	
ア		イ	



**課題 2** オセアニア州は、どのような地域から成り立っているか、下の空欄にまとめてみよう。

-----  
-----

**課題 3** オーストラリアの社会は、どのように変化してきたか、次の文章の空欄に適する語句を記入してみよう。

- ・オーストラリアには、もともと先住民の（ ）の人々が狩猟や採集をしながら暮らしていた。
- ・しかし、18世紀の終わりに、（ ）からの移民の入植で土地を追われたり、外から持ちこまれた病気に感染するなどして人口が減少した。
- ・オーストラリアでは、第二次世界大戦まで、白人以外の移民をしめ出す（ ）政策をとってきたが、1970年代以降はアジアからの移民も受け入れるようになり、現在では（ ）主義を方針としている。
- ・オーストラリアは貿易でもアメリカ合衆国やアジア各国との結びつきを強め、（ ）、中国、韓国が輸出相手国の上位をしめている。

**課題 4** 太平洋の島々の自然や暮らしの特徴について、教科書や地図帳から読み取れることを下にまとめてみよう。

-----  
-----